

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和2年12月10日(2020.12.10)

【公表番号】特表2019-535348(P2019-535348A)

【公表日】令和1年12月12日(2019.12.12)

【年通号数】公開・登録公報2019-050

【出願番号】特願2019-517967(P2019-517967)

【国際特許分類】

A 44 C 5/14 (2006.01)

G 04 B 37/16 (2006.01)

【F I】

A 44 C 5/14 J

G 04 B 37/16 Q

【手続補正書】

【提出日】令和2年10月29日(2020.10.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

一対の連結具(10)を備える腕時計ストラップ連結具(10)であって、

各連結具は本体(12)を有し、それぞれの前記本体は腕時計ケース(39)の一方の側面に係合するように適合された第1の端部(27)を有し、

それぞれの前記本体は、前記第1の端部の反対側にある第2の端部(25)を有し、

それぞれの前記本体は、前記本体の一対の対向する側壁(18)の間に延在する上面(13)及び下面(17)を有し、

それぞれの前記本体は、前記本体の前記第2の端部にある第1の開口部(14)から前記本体の前記下面にある第2の開口部(30)まで前記本体を通って延在する時計バンド通路(28)を有し、

それぞれの前記本体は、前記一対の対向する側壁のうちの第1の側壁の中に形成された第1の穴(22)を前記時計バンド通路内に有し、

それぞれの前記第1の穴は、前記一対の対向する側壁のうちの第2の側壁の中に形成された第2の穴(22)に対応する位置にあり、

前記一対の連結具のそれぞれは、それぞれの第1の穴及び第2の穴と係合する対向する端部を有するそれぞれのバネ棒(20)と係合可能であり、

前記一対の連結具のそれぞれは、ツーピース時計バンド(24)の一方の部品と、2つの部品のそれぞれの対応する連結端がそれぞれのバネ棒に係合することによって係合可能であり、

前記一対の連結具のそれぞれはさらに、前記一対の連結具のうちの第1の連結具の前記第1の開口部から前記時計バンド通路を通って前記第2の開口部まで、前記一対の連結具のうちの前記第1の連結具の前記第2の連結具から第2の連結具の前記第2の開口部まで、及び前記一対の連結具のうちの前記第2の連結具の前記第2の開口部から前記第2の連結具の前記時計バンド通路を通って前記第2の連結具の前記第1の開口部まで延在する曲がりくねった経路に沿って、シングルピース時計バンドを配置することにより前記シングルピース時計バンド(32)と係合可能であり、

前記一対の対向する側壁のうちの前記第1の側壁には、第1の凹状表面(15)まで後

退した第1の溝（16）があり、前記第1の溝は前記第1の開口部から前記第1の穴との第1の交点まで延在し、

前記一対の対向する側壁のうちの前記第2の側壁には、第2の凹状表面（15）まで後退した第2の溝（16）があり、前記第2の溝は前記第1の開口部から前記第2の穴との第2の交点まで延在し、

前記第1の溝は、前記第2の側壁の中に後退した前記第2の溝に対して、前記第1の側壁の対応する位置にあり、

前記第1の溝の前記第1の凹状表面と前記第2の溝の前記第2の凹状表面との間の距離は、前記第1の凹状表面と前記第2の凹状表面との間の前記距離（D1）が最も広い前記第1の開口部に隣接した部分から、前記第1の凹状表面と前記第2の凹状表面との間の前記距離（D2）がより狭い前記第1の穴及び前記第2の穴のそれぞれに隣接した部分に向かってテーパリングし、

これにより、前記第1の凹状表面と前記第2の凹状表面との間の前記距離の前記テーパリングは、前記バネ棒が前記第1の穴及び前記第2の穴に向かって並進する間に前記バネ棒の突出部を圧縮すると共に、対応する端部で前記第1の溝及び前記第2の溝の中に係合するように圧縮経路を画定する、腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項2】

前記時計バンド通路の前記第1の穴及び前記第2の穴に隣接した第2の部分であって、前記時計バンド通路の前記第1の開口部に隣接した第1の部分より高い、第2の部分と、

前記ツーピース時計バンドを形成する前記2つの部品のそれぞれの対応する連結端のそれぞれの係合の拡張部分であって、対応するバネ棒と係合しながら、前記時計バンド通路の高い方の前記第2の部分の中に前記連結端の第3の係合を同時に形成する、拡張部分とをさらに備える、請求項1に記載の腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項3】

前記第1の穴および前記第2の穴を取り囲む前記対向する側壁のそれぞれの中に後退した同心円環状の凹部（23）をさらに備え、前記同心円環状の凹部は、前記バネ棒の端部でフランジ（21A）を受け入れるように動作可能である、請求項1に記載の腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項4】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第1の端部は、前記第1の端部に軸路（33）を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通って前記腕時計ケースのラグ（37）に係合するピンを配置できる大きさである、請求項1に記載の腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項5】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第1の端部は、前記第1の端部に軸路（33）を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通って前記腕時計ケースのラグ（37）に係合するピンを配置できる大きさである、請求項2に記載の腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項6】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第1の端部は、前記第1の端部に軸路（33）を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通って前記腕時計ケースのラグ（37）に係合するピンを配置できる大きさである、請求項3に記載の腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項7】

一対の連結具（10）を備える腕時計ストラップ連結具（10）であって、

各連結具は本体（12）を有し、それぞれの前記本体は腕時計ケース（39）の一方の側面に係合するように適合された第1の端部（27）を有し、

それぞれの前記本体は、前記第1の端部の反対側にある第2の端部（25）を有し、

それぞれの前記本体は、前記本体の一対の対向する側壁（18）の間に延在する上面（13）及び下面（17）を有し、

それぞれの前記本体は、前記本体の前記第2の端部にある第1の開口部(14)の間で前記本体の前記下面にある第2の開口部(30)まで前記本体を通って延在する時計バンド通路(28)を有し、

それぞれの前記本体は、前記一対の対向する側壁のうちの第1の側壁の中に形成された第1の穴(22)を前記時計バンド通路内に有し、

それぞれの前記第1の穴は、前記一対の対向する側壁のうちの第2の側壁の中に形成された第2の穴(22)に対応する位置にあり、

前記一対の連結具のそれぞれは、それぞれの第1の穴及び第2の穴と係合する対向する端部を有するそれぞれのバネ棒(20)と係合可能であり、

前記一対の連結具のそれぞれは、ツーピース時計バンド(24)の一方の部品と、2つの部品のそれぞれの対応する連結端がそれぞれのバネ棒に係合することによって係合可能であり、

前記一対の連結具のそれぞれはさらに、前記一対の連結具のうちの第1の連結具の前記第1の開口部から前記時計バンド通路を通って前記第2の開口部まで、前記一対の連結具のうちの前記第1の連結具の前記第2の開口部から第2の連結具の前記第2の開口部まで、及び前記一対の連結具のうちの前記第2の連結具の前記第2の開口部から前記第2の連結具の前記時計バンド通路を通って前記第2の連結具の前記第1の開口部まで延在する曲がりくねった経路に沿って、シングルピース時計バンドを配置することにより前記シングルピース時計バンド(32)と係合可能であり、

前記第1の穴及び前記第2の穴に隣接した前記時計バンド通路の第2の部分は、前記第1の開口部に隣接した前記時計バンド通路の第1の部分より高く、

前記ツーピース時計バンドを形成する前記2つの部品のそれぞれの対応する連結端のそれぞれの係合の拡張部分は、対応するバネ棒と係合しながら、前記時計バンド通路の高い方の前記第2の部分の中に前記連結端の第3の係合を同時に形成する、腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項8】

前記一対の対向する側壁のうちの前記第1の側壁には、第1の凹状表面(15)まで後退した第1の溝(16)があり、前記第1の溝は前記第1の開口部から前記第1の穴との第1の交点まで延在し、

前記一対の対向する側壁のうちの前記第2の側壁には、第2の凹状表面(15)まで後退した第2の溝(16)があり、前記第2の溝は前記第1の開口部から前記第2の穴との第2の交点まで延在し、

前記第1の溝は、前記第2の側壁の中に後退した前記第2の溝に対して、前記第1の側壁の対応する位置にあり、

前記第1の溝の前記第1の凹状表面と前記第2の溝の前記第2の凹状表面との間の距離は、前記第1の凹状表面と前記第2の凹状表面との間の前記距離(D1)が最も広い前記第1の開口部に隣接した部分から、前記第1の凹状表面と前記第2の凹状表面との間の前記距離(D2)がより狭い前記第1の穴及び前記第2の穴のそれぞれに隣接した部分に向かってテーパリングし、

これにより、前記第1の凹状表面と前記第2の凹状表面との間の前記距離の前記テーパリングは、前記バネ棒が前記第1の穴及び前記第2の穴に向かって並進する間に前記バネ棒の突出部を圧縮すると共に、対向する端部で前記第1の溝及び前記第2の溝の中に係合するための圧縮経路を画定する、

請求項7に記載の腕時計ストラップ連結具。

#### 【請求項9】

前記第1の開口部に隣接する前記時計バンド通路の第1の部分よりも高い、前記第1の穴および前記第2の穴に隣接する前記時計バンド通路の第2の部分と、

前記時計バンド通路の高い方の前記第2の部分の中に連結端の第3の係合を同時に形成するそれぞれのバネ棒と係合するとともに、前記ツーピース時計バンドを形成するそれぞれの前記2つの部品のそれぞれの前記連結端の各係合の拡張部分と、

をさらに備える、請求項 8 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 1 0】

それぞれの前記本体のそれぞれの前記第 1 の端部は、前記第 1 の端部に軸路（33）を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通って前記腕時計ケースのラグ（37）に係合するピンを配置できる大きさである、請求項 7 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 1 1】

それぞれの前記本体は、そのそれぞれの前記第 1 の端部において、前記第 1 の端部に軸路（33）を有することにより、前記腕時計ケースへの前記係合に適合しており、前記軸路は、そこを通って前記腕時計ケースのラグ（37）の間で係合するピンを配置できる大きさである、請求項 8 に記載の腕時計ストラップ連結具。

【請求項 1 2】

前記第 1 の穴および前記第 2 の穴を取り囲む前記対向する側壁のそれらの中に後退した同心円環状の凹部（23）をさらに備え、前記同心円環状の凹部は、前記バネ棒の端部でフランジ（21A）を受け入れるように動作可能である、請求項 7 に記載の腕時計ストラップ連結具。